



# 「ストップ・ゴルフ場北海道交流集会」を終えて

## 北海道ゴルフ場問題情報ネットワーク

### 神原 昭子

かんばら あきこ  
 1942年東京都生まれ。  
 1965年中央大学法学部  
 政治学科卒業。青木書店  
 編集部勤務を経て消費生  
 活・環境問題の企画編集  
 を行なう「編集工房あくと  
 と」を設立。現在、日本  
 消費者連盟運営委員、会  
 ゴルフ場問題全国連絡会  
 事務局メンバー、北海道  
 ゴルフ場問題情報ネットワ  
 ーク呼びかけ人。

去る十二月一日、札幌市の市民会館で「ストップ・ゴルフ場北海道交流集会」が開催されました。当日は、会を主催した北海道自然保護協会と北海道ゴルフ場問題情報ネットワークの呼びかけに、道内各地から三〇グループ・一三〇名が参加、国立公園から身近かな自然、森林や農地はては河川敷にいたるまで、ゴルフ場開発が道内全域に広がっている実情の報告とゴルフ場計画に反対する各地の運動経験の交流が行われました。

「ふるさとをゴルフ場には売らない」——ゴルフ場開発に反対する地域住民の運動は、バブル経済の崩壊による開発企業の倒産や計画の見直しという追い風に乗って、「ストップ・ゴルフ場」の波を全国に広げ、成果をあげています。しかし、本州でストップしたゴルフ場計画が、地価が安く、法律や要綱の規制のゆるい北海道やアジア・太平洋地域に集中的に進出しているとも言われています。

北海道のゴルフ場開発は、九一年十一月に道が発表したリゾート開発の実態調査においても、衰える傾向は見えず、既設のゴルフ場数は一三二でついに全国一、造成中・許可済四一、本申請中四四、事前協議中一八、これに増設分の二か所を加えれば、なんと二三七か所。これは全国の一割以上に相当しますが、さらに市町村段階での計画を合わせれば三六〇〜三七〇か所ともいわれる異常な状態です。

なぜ、こんなに北海道に集中するのでしょうか。それは、①本州各地に較べて地価が極端に安いこと、②農林漁業の地盤沈下や炭坑の閉山による過疎化に悩む市町村が、他県とは比較にならないほどゴルフ場開発に積極的を期待をかけていること、③道の環境アセスメント条例においては、ゴルフ場は、

三〇〇以上の複合施設に含まれる場合以外は対象にしておらず、道の「要綱」にもとづくゴルフ場開発のアセスメントも、住民に公表されないこと、④預託制会員権販売に対する道の規制がゆるく、業者は開発費用の大部分を借入金で賄えること、⑤知事サイドにはゴルフ場を凍結する意志はほとんど見られないことなど、開発業者にとっては都合の良い条件がそろっているからです。これでは、本州各県が規制を強めれば強めるほど、ゴルフ場建設の流れは北海道に向かってくるでしょう。

この三年間、ゴルフ場開発が「山のゲンパツ、町や村のリクルート」といわれる大きな社会問題として論議される中で見えてきたことは、①「無農薬ゴルフ場」は採算を度外視しないかぎり、経営を続けることは困難であること、②ゴルフ場開発で山や森を崩し、大規模な土地の改変を行えば、川や海が汚染・汚濁すること、③造成時に、切土・盛土斜面の土砂崩壊防止のために使用される地盤凝固剤や芝の育成に使われる土壌改良剤による水の汚染が予測されること、④ゴルフ場開発の切り札である地域への経済効果も、土建・不動産業者や土地を売った地権者などの一部のみに限られること、⑤期待される税収の増加も、それにもなう地方交付税の減額や、自治体がゴルフ場のために行う、上下水道・道路・ゴミ処理施設の整備とその後の維持・管理などで支出する額とのバランス・シートはむしろマイナスであること、⑥ゴルフ場による雇用の増加は、若年層流出の歯止めにならないばかりか、地場産業の人手不足を招く傾向が見られること、そして⑦「自然と調和したゴルフ場」はありえないこと、なぜなら、寸断された森林や土の中に張りめぐらされたパイプといった環境の中では、生き物が野生本来の姿で生

き続けることはほとんど不可能だからです。

しかし、開発ラッシュが道内全域に広がるにつれて、ゴルフ場計画に反対する地域住民やグループも、この一年間で倍以上に増え、道内各地・五〇か所以上に広がっています。これらのグループ相互の交流と「ストップ・ゴルフ場」のための情報の交換をめざした先日の交流集会では、開発企業と地元の市町村や農協が一体となって計画を進める地域の中で、ひとりであるいは少数で「反対」を表明し、行動することの厳しさ、それにもかかわらず、この困難な状況の中で、要望書の提出だけではなく、全道・全国に呼びかけての署名活動や陳情行動、「ゴルフ場反対」を掲げた選挙や立て看板の設置、建設差し止めの訴訟や裁判にいたるまでの各地のさまざまな取り組みが、限られた時間と競争しながら報告されました。

集会の最後には、ゴルフという一部の人の遊びのために、北海道の残された自然をもうこれ以上破壊させず、生きとし生けるものが共存できる北海道の豊かな自然を後世の人たちに伝えるために、「すべてのゴルフ場計画を速やかに凍結すること」というアピールを満場一致で採択、同時に、①道の「開発規制要綱」から適用除外事項を削除すること、②道の環境アセスメント条例の対象にゴルフ場を加えること、③預託制会員権の販売開始時期を工事完了後に改めること、④ゴルフ場開発による「地域振興」の効果を調査・公表することを道政に要望することが確認されました。

なお、今回の集会で特に強調されたのは、ゴルフ場による地盤災害への警告です。全国的に大雨と台風が多かった今年のゴルフ場造成現場では、地滑り・崖崩れ・土石流などの事故と生き埋め・大けが・死

亡などの人身被害が全国各地で起きています。十月二六・二七の両日、福島県のいわき市で開催された第六回ゴルフ場問題全国交流集会では、山林を切り開いて造成されたゴルフ場による地盤崩壊の実例や、大地震や台風・大雨などの洪水災害に対しては、人工的に作られた砂防ダムもゴルフ場の調整池も効果がないばかりではなく、災害の大規模化の元凶になりかねないことが報告されました。

北海道は、ほぼ全域が火山性の堆積物に覆われていること、しかも、地震・火山の多発地帯であることを思えば、その危険性はさらに重大です。農業・化学肥料・土壌改良剤・地盤凝固剤や森林の伐採による環境の汚染と破壊に加えて、ゴルフ場による地盤災害の危険性が今後は問題になる、と警告された八木健三先生の集会における問題提起を、取り急ぎレポートします。

#### ゴルフ場による地盤災害―北海道の場合

北海道大学名誉教授 八木 健 三

ゴルフの発祥はスコットランドです。スコットランドの牧場や荒地にあるウサギやリスの穴の中に、牧童たちが石を杖でころがし、「入った」とか「入らなかった」とかいつて遊んだのが、そもその始まりといわれています。もともとスコットランドという所は、雑草ですらほとんど生えない寒冷地ですから、ゴルフ場の芝のために農業を撤く必要はないし、荒地や牧場のような自然の地形を利用して作られたために、山を崩し谷を埋めるといったような大規模な造成工事も必要ありません。

ところが、このゴルフがアメリカに渡ると様子が変わり、さらに、日本では、ゴルフ場による環境破

壊など、大変な状況です。そこで、イギリスのゴルフファーたちは「ゴルフを悪くしたのは日本人だ」と公言しているそうです。その日本の中でも、今、北海道のゴルフ場の数が日本一だとすると、われらの北海道は、「悪い」ゴルフファーが世界一ひしめく所という意味でのワースト・ワンということになるのではないのでしょうか。

ところでゴルフ場による地盤災害の問題ですが、もともと、ゴルフ場というものは、平らな所に多くありますが、最近のゴルフ場は、かなり山を崩し谷を埋めるといった大規模な土木工事で造られています。

この間、長野県の軽井沢で見たゴルフ場には、大変びっくりいたしました。軽井沢で、いまや自然破壊で悪名の高い堤義明氏の国土計画株が造っている「七二(セブン・ツー)」などのゴルフ場を見てもらったのですが、その隣の地区に、「九〇〇倶楽部」というゴルフ場が新しく造られています。これは、標高九〇〇以上の所にあり、有名なデザイナー(芦田淳)がデザインしたということですが、その工事現場は、山を崩して急傾斜の法面が露出し、谷を埋め、さらに驚いたことには、川の流れを変えて新たに川を作り替える、こういうようなことが行なわれていまして、開発業者は「この工法を使えば、日本中、ゴルフ場のできない所はない」と豪語しているそうです。このゴルフ場は、傾斜が大変きつ、「登山ぐつを履いてゴルフをするのか」といわれたほどですが、お年寄りのために野外のエスカレーターがとりつけられました。このような急傾斜地の工事ですから、造成工事の中の土砂の崩壊や作業員の事故などの地盤災害が多発し、始まってからすでに数年、

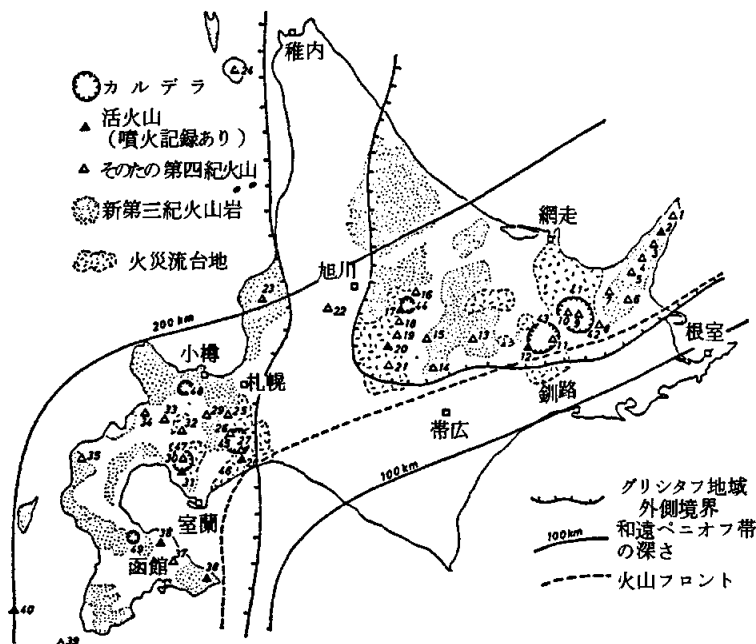
予定の工期をはるかにオーバーしているそうです。

こういったことが、現在、日本中で行われつつあり、各地で地盤災害が発生しております。たとえば、一九七六年には栃木県でゴルフ場造成中に土砂が崩れ、二二人が生き埋めになり、そのうち一二人が死亡するという惨事があり、一九八九年には、再び栃木県で一名が死亡しています。また、一九八一年に長野県の須坂で土石流で一〇名死亡していますが、これは、上方にある菅平ゴルフ場造成による地形変形が原因ではないかといわれています。しかも、これらの地域は、いずれも火山岩からなっております。

幸いに、北海道では、今まで比較的平地での造成だけだったのが、最近では、早来町のゴルフ場のように、山を崩し谷を埋めるといった、大変心配される状況が起き始めており、それが、かなり加速されようとしています。そうしますと、先にのべたような地盤災害、今までは北海道では起きていませんが、これからは、北海道で起ってくる可能性が非常に高くなると思われるます。

なぜ高くなるのかと申しますと、北海道には、たくさん火山があるからです。図の1の中に点線がずっと走っています。これは火山フロントといいますが、この線の内側には、活火山がたくさんあります。私どもは、この地域をグリーンタフ地域といっており、屈斜路カルデラ、大雪カルデラ、支笏カルデラ、洞爺カルデラ、これらはすべて国立公園ですが、この中にあり、その周辺の地域に、ゴルフ場がたくさん計画されています。

この支笏カルデラというのは、百立方キロという、非常に多量の火砕流を噴出し、札幌方面や早来・苫小牧周辺などの広い地域にわたって分布しています。苫小牧には、この火砕流の堆積物が非常に厚いので



25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
空沼岳	利尻岳	暑寒別岳	イルムケップ	富良野岳	十勝岳	トラムウン	忠別岳	旭岳	ニセイカウシュンペ	然別火山群	ニベソツ	キトウ山	雌阿寒岳	雄阿寒岳	屈斜路中島	アトサヌプリ	カムイヌプリ	カトリ岳	武佐岳	海別岳	遠音別岳	羅白岳	知床硫黄岳	知床岳
49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	
濁川	赤井川	洞爺	クッタラ	支笏	大雪	阿寒	摩周	屈斜路	渡島大島	渡島小島	恵山	横津岳	駒ヶ岳	狩場山	雷電岳	ニセコ火山群	羊蹄山	有珠山	洞爺中島	無意根山	樽前山	惠別岳	フツシ岳	

図1 北海道の火山分布図 (八木健三 1985)

すが、この上に、いくつかのゴルフ場があり、さらに、たくさん計画されています。千歳空港周辺の、いわゆるゴルフ場銀座といわれている所は、すべて、この支笏カルデラの火砕流の上に位置しています。この火砕流は、非常に崩れやすい岩石で、九州の鹿児島の方では、これを「シラス」と呼んでいます。このシラス地帯では、土砂崩れが起きやすく、大変困っております。ただ幸いなことに、台風の影響を受けやすい鹿児島に較べますと、北海道では台風がそれほど猛威をふるわないので、今までのところ

は、この影響はあまり出ておりません。しかし、この火砕流の上のゴルフ場は、非常に危険が多いのです。

屈斜路カルデラの中にあるアトサヌプリ(硫黄山)の麓のあたりに、コタン(古丹)ゴルフ場計画地があります。これも、シラス的な火砕流の上に計画されており、北海道自然保護協会としても反対しています。

私は、先週、島原の雲仙岳の活動を見てきたのですが、支笏の火砕流あるいは屈斜路の火砕流は、雲

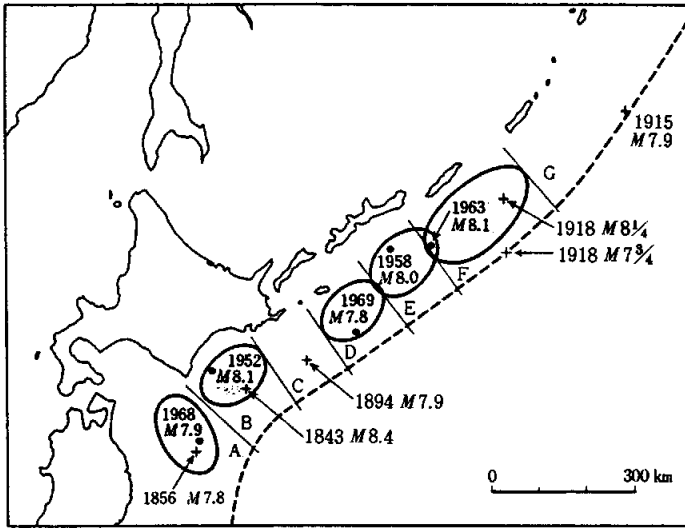


図2 北海道の近年における巨大地震  
(宇津徳治 1972)

仙岳の火砕流と大体同じような岩石から成っています。北海道にはこういう火砕流堆積物が多いということについて、十分注意しなければなりません。

このように、地質学的にみまると、北海道のゴルフ場は、危険な所に位置しているといわざるをえません。ただ、今までは比較的平らな所に造られていましたから、被害が出てきていませんが、現在の異常なゴルフ場ブームは、前に述べましたように、山を削り谷を埋めて、ゴルフ場を造成していますので、将来は必ずや、地盤災害を引き起こす恐れがあると思われまます。

もうひとつ大事なことは、地震についてです。数日前にも、地震で朝の眠りを呼び起こされましたが、あれは、釧路の方に震源があったようです。図の2は、北海道の近年の巨大地震を示したのですが、太平洋側に集中しており、太平洋側に地震が起きやすいということがこの図からも分かります。これらは、すべて今世紀に起こった巨大地震ですが、ただひとつ、根室の東側の所には、巨大地震はまだ起きていません。そこで、この地域には巨大地震が起きる可能性があるのではないかとわれています。

このような地震のときには、どういった現象が起こるかとお申しますと、水分を含んだ土砂や地盤が硬さを失ってプヨプヨになり、崩れてしまう、こういう「液状化」という現象が起こるのです。これは日本では、一九六四年の新潟地震で最初に観察されましたが、その後、こういった現象が非常に注目され、最近のサンフランシスコの地震でもよく観察されました。

さらに地震の時には、造成地域、とくに盛り土をしたとか埋め土をした地域に、被害が起きています。一九七四年の宮城県沖地震のときには、仙台で、山

を削って造成された住宅地などで、多くの死者が出ました。このような地震が北海道で起きたらどうなるか。北海道は、図の2のように、地震の起きる可能性が高い地域です。

現在、ゴルフ場は二〇〇万立方以下ならば土砂を動かしてもいいという条件で、多量の土砂を移動して造成されていますが、こういった盛り土あるいは埋めた所で、地盤災害の起こる可能性があるわけです。

私どものゴルフ場に対する反対は、今までは、農業の問題や森林の伐採ということに重点がおかれていたことが、これからは、地盤災害のもつ危険性という点に、もっと注意を向けて、北海道の自然環境の保全に努力していくことが必要だと思えます。

おわりに、本州におけるゴルフ場の地盤災害についてご教示いただいた生越忠博士に感謝します。